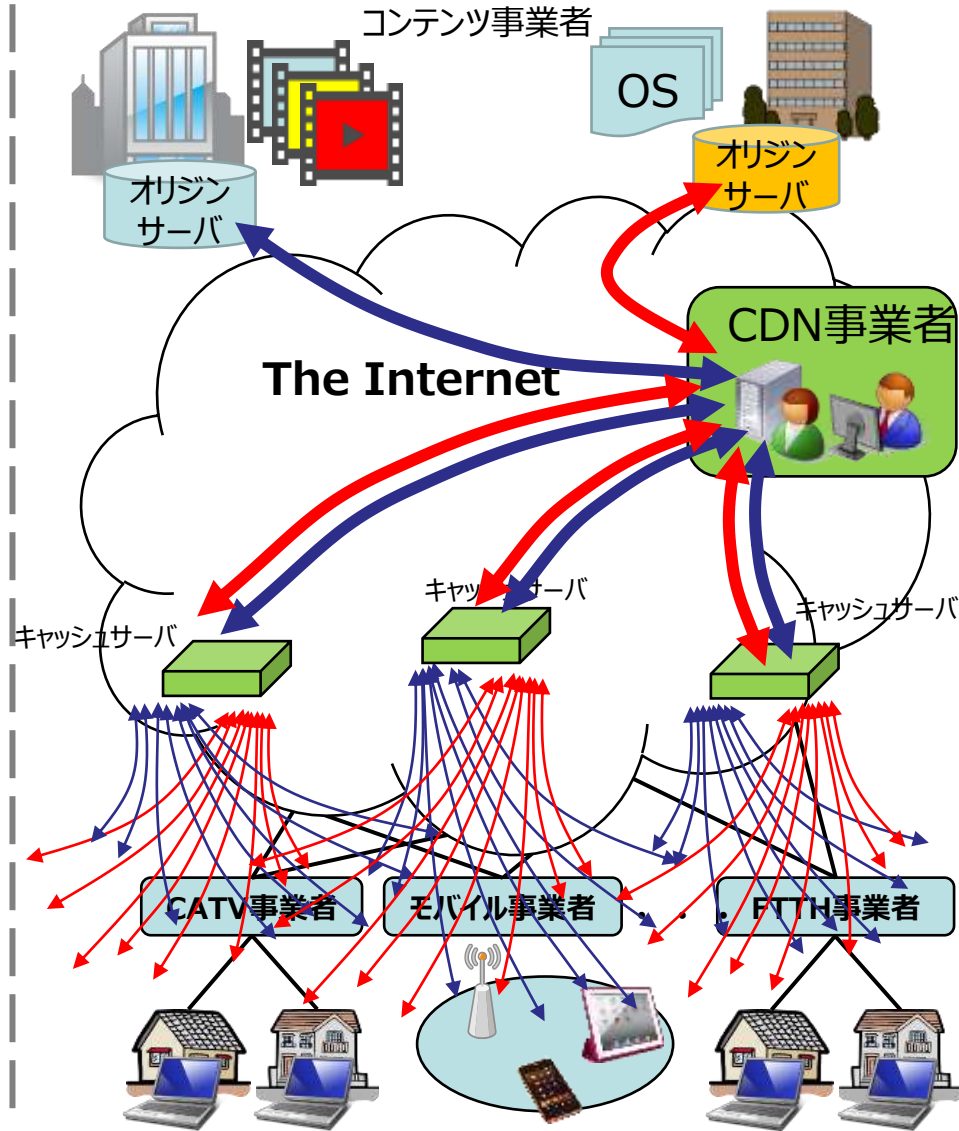
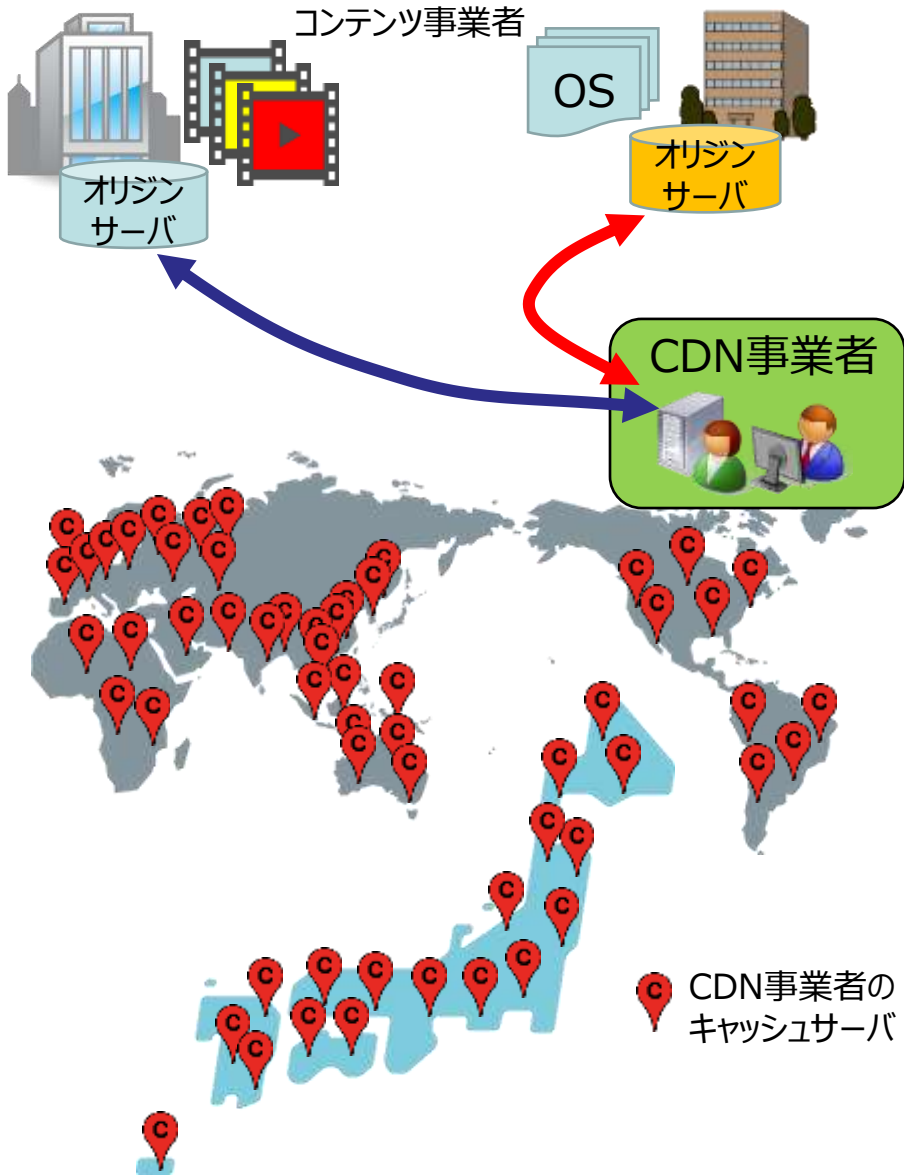


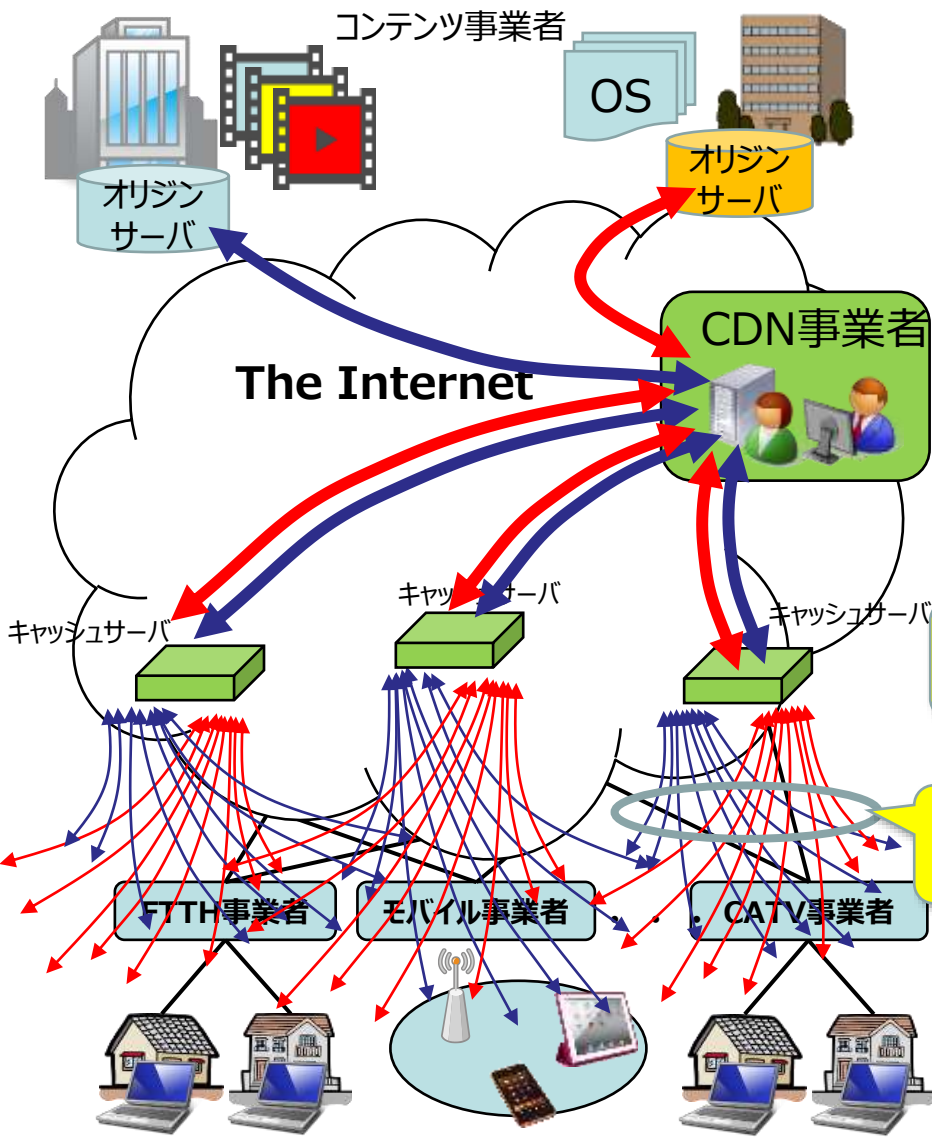
JPIX Akamai shared cacheサービスについて

CDN(Content Delivery Network)事業者

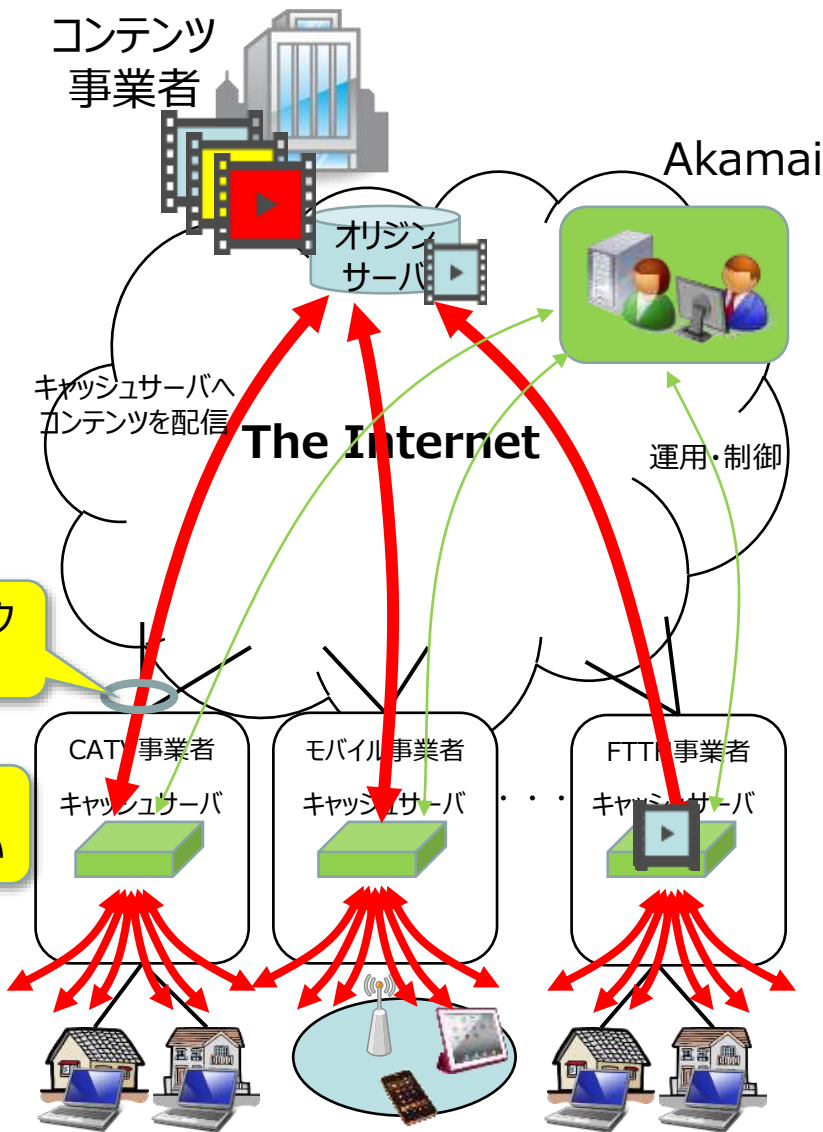


一般のCDN事業者とAkamaiの違い

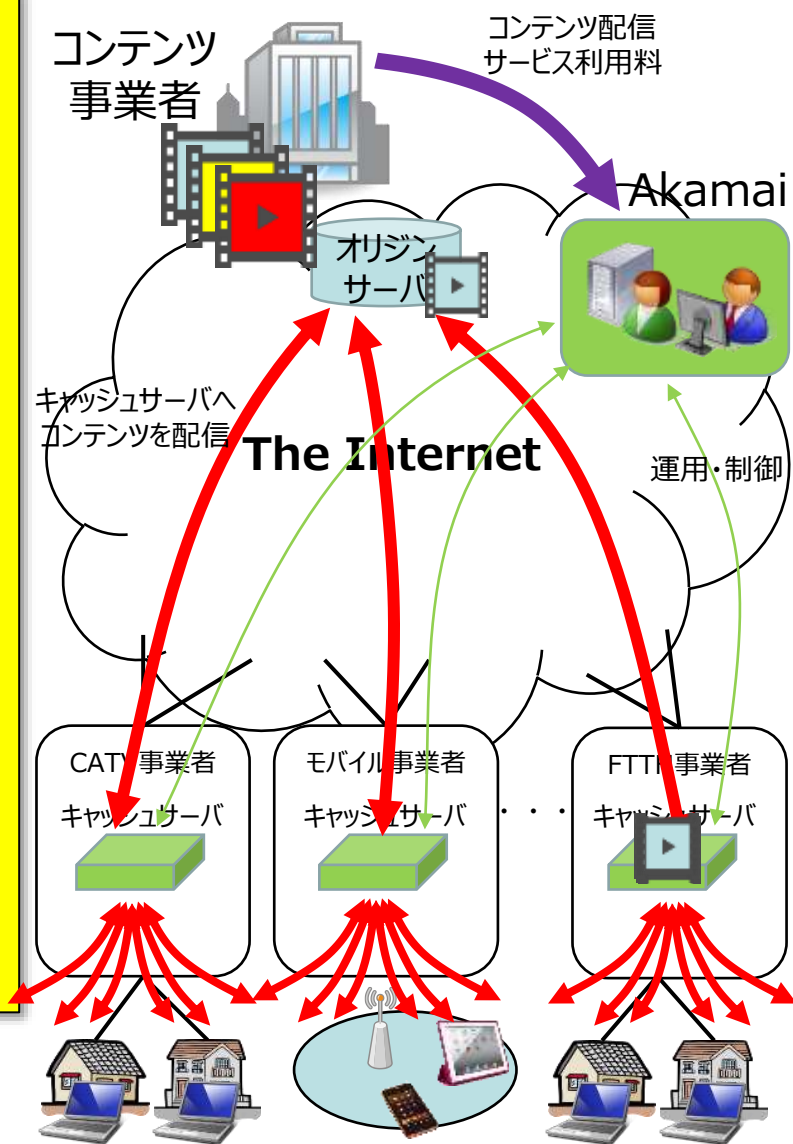
一般のCDN



Akamai



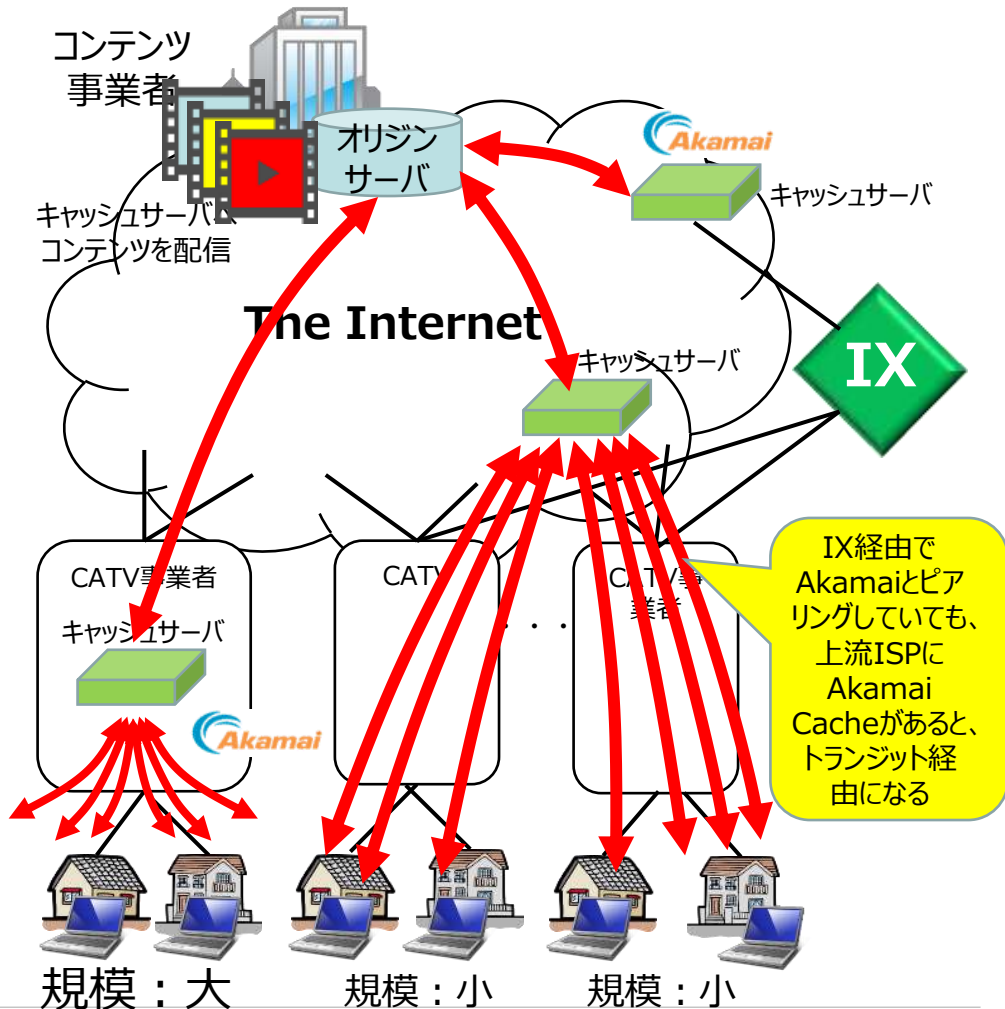
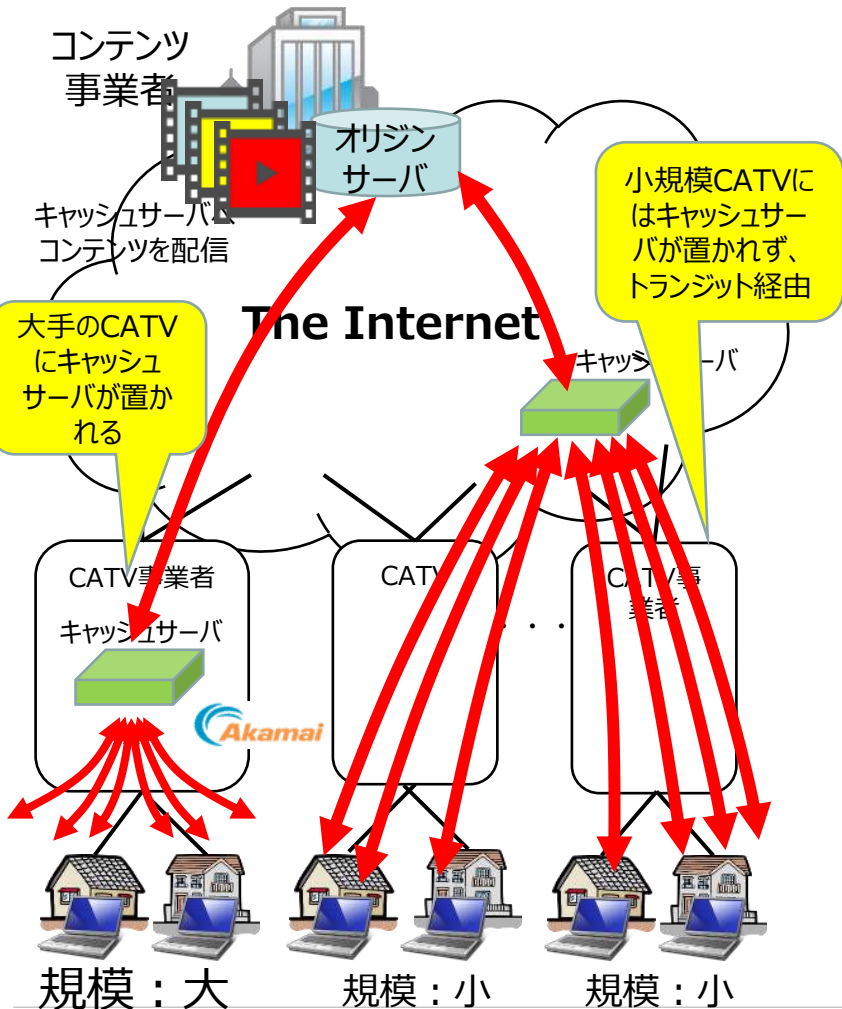
- ① Akamaiからアクセス系事業者のセンターにキャッシュサーバを届ける
- ② アクセス系事業者はキャッシュサーバを自社センターに設置し、電源を供給し、インターネットへ接続
⇒アクセス系事業者とAkamai間で費用のやりとりはない
⇒Akamaiはコンテンツ事業者から配信サービスの収入を得るが、アクセス系事業者からは収入を得ない
- ③ Akamaiのセンターから全世界のキャッシュサーバを遠隔運用、制御し、コンテンツ事業者のオリジンサーバ⇒キャッシュサーバ⇒デバイスへと配信
- ④ キャッシュ経由のトラフィックが増えることで
⇒アクセス系事業者はトランジット費用を削減できる
⇒コンテンツは安定品質で配信される
⇒Akamaiはコンテンツ事業者から配信収入を得る



世界130以上の国々で1,700以上のネットワーク内に、
240,000台以上のキャッシュサーバが配置されている。

小規模事業者はAkamai Cacheの恩恵を受けにくい

- ・ 小規模のケーブルテレビ事業者にはAkamaiキャッシュサーバは設置されず、トランジット経由で接続されるので、アクセスが増えるとコストも増加する。
- ・ IXでAkamaiとピアリングしていても、上流ISPにAkamai Cacheがあると、そちら(トランジット)経由になる



- BGP運用を実施していても、小規模のケーブルテレビ事業者にはAkamaiキャッシュサーバは設置されず、IX経由ではなくトランジット経由で接続され、アクセスが増えるとコストも増加する。
- JPIXは業界で初めて、AkamaiのShared Cacheサービス化を開始。
規模に関係なく、IX経由でトラフィックが疎通できる。

